

2015 年 1 月 15 日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

トルコ国 可変速揚水発電所建設事業  
(協力準備調査(有償))  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015 年 11 月 30 日(月) 13:59～16:35
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1 階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、清水谷委員、鋤柄委員、谷本委員、長谷川委員
- ・議題：トルコ国 可変速揚水発電所建設事業に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1) 協力準備調査スコーピング案への助言対応表
  - 2) ドラフトファイナルレポート
  - 3) Environmental Impact Assessment Report
  - 4) Abbreviated Resettlement Action Plan
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 65 回委員会)

- ・日時：2016 年 1 月 15 日(金) 14:33～17:36
- ・場所：JICA 市ヶ谷ビル(会議室：201 AB)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

#### **代替案の検討**

1. 残土処分地（disposal site）に係わる代替案検討の詳細を FR に記述すること。

#### **スコーピング・マトリックス**

2. Assessment based survey results に示される評価は、対策前であることを FR に明記すること。
3. 建設予定の送電線の距離が 600m の短さとはいえ、バードストライクの可能性を完全には否定できないことから、FR ではスコーピングの評価を D から B-に変更し、あわせて評価理由の欄にバードストライクの可能性を記述すること。
4. スコーピングマトリックスの（18）水利権の項目において、ステークホルダー協議で懸念事項として挙げられていた養殖業への影響を記述すること。
5. 上部調整池（底面・側面）の遮水に使用されるアスファルトによる大気・臭気・水質等への影響については、施工時は十分な緩和策がとられ影響が最小限に抑えられること、運用時は常温下での運転となるため大気・臭気・水質等への影響がないこと、また生活環境への影響がないことを住民へ周知する必要性を、FR に記述すること。

#### **環境配慮**

6. 生態系への影響の緩和策に示されるレッドリスト記載の動植物の移動や移植は、専門家のアドバイスを得的確に行われるように FR に記述すること。
7. 採石場については、操業時および操業後においても、景観のみならず生態系への悪影響がないという確認結果を FR に記述すること。
8. 工事終了後もそのままの状態を維持される残土処分地では、土砂流出等に対する防止策が取られること、また十分な対策が取られることを住民へ周知する必要性を、FR に記述すること。
9. 伐採予定の樹木については、住民等からの要望や意見も踏まえて移植等の保全策が講じられるように FR に記述すること。
10. 工事によって改変が行われる斜面や形成された法面における植林・緑地化の計画内容を FR に記述すること。

11. プロジェクトとの関連が考慮される位置に新規井戸が建設される場合は水質モニタリングの対象として含める必要があることを、FR に記述すること。

#### **ステークホルダー協議・情報公開**

12. 墓地の移転については、住民の要望や意見を尊重した移転計画となるように FR に記述すること。

#### **その他**

13. 事業の経済・財務分析に際しては、施工費及び発電所運営費の中に環境対策関連の経費が計上されていることを FR に記述すること。

以上